

## ○総括質疑 (23. 10. 12)

### 1 行財政改革について

(北山議員)

行財政改革については、市長の強い信念を伺い、安堵した反面、外郭団体の見直しや民間活力の導入、未収債権対策、ファシリティマネジメントなど、残された課題もまだまだ多い。行財政改革は都市活力の源である。そう考えると、都市間競争が激化して、本市が他の都市群のなかに埋没してしまわないために、明確なビジョンのもと、市長がリーダーシップを発揮し、都市経営の舵をとっていただきたい。

そのためには、思い切った改革の断行により、財政余力を捻出し、時には大胆な投資を行うことも重要である。

その意味で、来年1月から放映されるNHKの大河ドラマ「平清盛」は、千載一遇のチャンスである。第2の「風見鶏」とするべく、全庁一丸となった取り組みを進めるべきである。しかし、これに関連する本市の予算規模が4億円に止まっていることは、その経済効果を考えると、全く足りない。厳しい財政事情であることは承知しているが、今こそネーミングライツをあらゆるところで活用してでも、取り組んでいかなければならないのではないか。

また、こういった事業にこそ、学校や市営住宅の跡地である遊休地の売却収入や、行財政改革によって生み出した財源を、果敢に投入する姿勢も必要ではないか。それこそが、市長のよく言われる選択と集中そのものだと思っている。

このような攻めの姿勢を貫くためには、その大前提として、やはり行財政改革は不可欠であるが、特に民間活力の導入については、より踏み込んだ改革を断行していただきたい。

これまで民間活力の導入には、大別して2つの手法がとられた。ひとつは指定管理者制度の導入や市バス営業所の民間委託など、官の施設や事業を民に管理・実施させる取り組み、もうひとつは、保育所の民間移管、独立行政法人化など、官が施設や事業自体を手放し、民に開放する取り組みである。

私は、本市の取り組むべき手法は、後者であるべきと考える。行財政改革2015においても、官民の役割分担を適切に見極め、最適手法を検討していくこととし、具体的な項目を挙げているが、それ以外にも、市営住宅や市営駐車場、ホールや体育館など、市有施設を数え上げればきりが無い。公的施設としてセーフティネットの役割が求められる事業、採算性が低く、民間事業者が参入しにくい事業もあるが、それら参入障壁は、補助金制度の創設や売却方式の創意工夫によって克服できる課題である。

かつて外部委員を交えて、市の全事業について、事務事業評価をおこなったが、改めて市有施設のあり方について、時代適合性に合致しているのか、再度検証し、民に開放するための取り組みや、制度設計を検討すべきと考える。

本市がこの時代の荒波を乗り切っていくには、民の知恵をうまく集積していく取り組みが必要であり、これがファシリティマネジメントの推進につながると考えるが、どうか。

(矢田市長)

民間活力の導入については、指定管理者制度の導入や PFI の活用、市バス営業所の管理委託、保育所の民間移管など、さまざまな取り組みを行なってきた。今後も、ご指摘の観点を視野におきながら進めていく必要があると考える。

セーフティネットなど行政として果たすべき役割があるが、その視点では、行政が自ら実施する分野、行政と民間がともに行う分野、民間に委ねる分野を適切に見極めながら、もっとも相応しい手法で取り入れていくことで、市民サービスの向上とコスト削減につなげる必要があると考える。また、市有施設のあり方という観点では、管理コストの削減、施設の長寿命化、段階的な施設総量の逡減、を3つの柱とするファシリティマネジメントに取り組んでいる。特に早急に検討を要する施設を抽出し、中長期的にどのようにしていくかの検討を始めたところである。検討にあたっては、時代適合性のなくなった用途は廃止し、余剰地を民間へ売却することや、その事業そのものを我々がやるべきかどうかの判断、必要な選択をし、費用対効果や市民サービス等の観点からも検証していきたい。そのなかで、公共施設の最適化に努めてまいりたい。「行財政改革 2015」においても、民間活力をさらに導入することとしている。今後とも、市民・事業者・行政の役割分担を十分に見極めながら、進めていくことが重要である。そういう点で、経営資源の積極的な活用は、非常に重要なことであり、それを意識して進めていきたい。

(北山議員)

市長が言われたとおり、ぜひともがんばっていただきたい。ただ一点、清盛の大河ドラマは、千載一遇のチャンスであると思っている。企画調整局の委員会でも言ったが、青森県から出している北前船にならって、清盛の船を神戸から出してほしい。清盛に関係のある関西一円、瀬戸内を初めとした地域に呼びかけて、瀬戸内クルージングをぜひやっていただきたい。このことを考えていただくよう要望する。